

『社会学入門』 正誤表

『社会学入門』（第6刷）についての正誤表です。

● 61 頁（第 7 章） 図 7.1 の 1970 年の数値

誤：26.8

正：23.6

● 97 頁（第 10 章） 結果 3

誤：「利益÷コスト」（2か所）

正：「コスト÷利益」（2か所）

● 132 頁（第 14 章） 下から 5～4 行目

誤：2人とも自白したら，2人とも有罪確定するが，刑期は10年の半分の5年となる．2人とも黙秘しつづけたら，自由にはならないが2年の刑期ですむ

正：2人とも自白したら，2人とも有罪確定するが，刑期は8年となる．2人とも黙秘しつづけたら，自由にはならないが6年の刑期ですむ

● 133 頁（第 14 章） 表 14.1

下記が正しい表です。

表 14.1 囚人のジレンマゲーム（単位は懲役年数）

囚人 A の選択	囚人 B の選択	
	黙秘（協力）	自白（裏切り）
黙秘（協力）	-6, -6	-10, 0
自白（裏切り）	0, -10	-8, -8

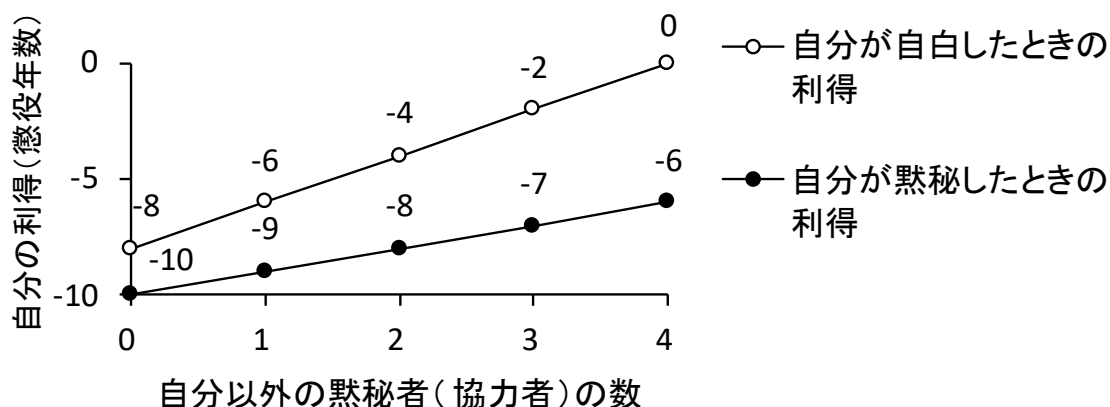
● 134 頁（第 14 章） 上から 8 行目

誤：しかしその結果，両者の刑期は5年となる．

正：しかしその結果，両者の刑期は8年となる．

● 134 頁（第 14 章） 図 14.2

下記が正しい図です。



● 135 頁 (第 14 章) 問 3 の直下の段落

誤：周囲 4 人のうち 3 人が黙秘し 1 人が自白しているとき、もし自分が黙秘したら、利得 -7 なので懲役 7 年となる。もし自分は自白したら、懲役 1 年と減るので、自白した方がよい。このように、縦に利得を比較していくと、周囲の何人が黙秘していても（したがって何人が自白していても）、「裏切って自白する」とつねに懲役が短くなるのである。

正：表 14.1 から、自分以外の黙秘者が 0 人の場合（すべての人が自白する場合）、自分の懲役は 10 年となる。自白すると懲役は 8 年に減るので自白したほうがよい。周囲 4 人のうち 3 人が黙秘し 1 人が自白しているとき、もし自分が黙秘したら、懲役 7 年となる。自分が自白したら、懲役 2 年に減るので、自白した方がよい。このように、縦に利得を比較していくと、周囲の何人が黙秘していても（したがって何人が自白していても）、「裏切って自白する」とつねに懲役が短くなるのである。